

一般社団法人 日本医療薬学会 第 86 回医療薬学公開シンポジウム開催報告書

第 86 回医療薬学会公開シンポジウム

実行委員長 室井 延之

(神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部長)

2022 年 10 月 1 日 (土)、第 86 回医療薬学公開シンポジウムを WEB (Live 配信) にて開催致しました。オンライン開催のため、全国から 295 名の参加がありました。

本シンポジウムは、「注射薬臨床情報の不易流行～臨床現場でクリニカルファーマコメトリクスを活用する～」をメインテーマとして、薬物治療の個別最適化について、4 名の講師より最先端のお話をいただきました。

講演 1 (座長：神戸学院大学薬学部教授 橋田亨先生) では、神戸大学医学部附属病院薬剤部 矢野育子先生より、「クリニカルファーマコメトリクス概論：個別化投与設計の変遷」と題してご講演をいただき、薬剤の用量と効果・副作用の関係を解析することで、臨床での個別化投与設計を科学的・合理的に行うことができることを、事例を交えて分かりやすく紹介いただきました。

また講演 2 (座長：大阪大谷大学薬学部教授 名徳倫明先生) では、熊本大学病院薬剤部・感染制御部 尾田一貴先生より、「臨床活用例・バンコマイシンの TDM を含めて」と題して、ベイズ推定法を活用した AUC の推定およびバンコマイシン TDM ソフトウェア「PAT」の開発に至る流れについて丁寧に説明いただきました。

講演 3 (座長：国際医療福祉大学薬学部教授 倉本敬二先生) では、神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部 田村亮先生より、「集中治療領域でのファーマコメトリクスの活用」と題して、レムデシビルを COVID-19 患者に投与した時の体内動態 (PK/PD モデル) 解析の計画から研究実施までの取り組みを詳細に紹介いただき、集中治療領域におけるファーマコメトリクス活用の可能性において、今後臨床現場でも非常に役立つ内容でした。

講演 4 (座長：神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部 室井延之先生) では、神戸学院大学 薬学部 /シンシナティ小児病院 臨床薬理学部門 福島恵造先生より、「数理モデルに基づく投与設計：クリニカルファーマコメトリクスの未来」について、①脂肪乳剤の個別化投与速度設計、②先天性心疾患 (CHD) 小児患者のバンコマイシン (VCM) 投与設計、③シンシナティ小児病院での PMx の活用例を紹介いただき、特に脂肪乳剤に関しては、ヒトにおける TG 代謝能の共変量として投与前の TG 濃度および体重が同定・定量され、解析結果より、個々の患者に適した投与速度の算定が可能になる点は、大変興味深い内容でした。

“不易”とは、いつまでも変わらないこと、そして“流行”とは、その時に応じて変化していくもの、を意味します。本シンポジウムは医薬品のプロファイルを科学し、生体への薬の反応から薬物療法を考えることの大切さを再考する貴重な機会となりました。

最後に今回のシンポジウム開催にあたり、ご講演を賜りました講師の先生方、座長の労を

お取りいただいた先生方、そして企画・運営にご尽力頂いた日本医療薬学会事務局の方々に深く感謝申し上げます。